

尚醸会会報

第13号

今号のトピックス

- 同窓会総会、尚醸会バイオテクノロジーセミナーの案内
今年は、平成22年11月13日（土曜日）に大阪梅田にて開催！
招待講演：海老原善隆（不二製油社長、昭和44年卒）
石崎 順（塩野義製薬研究所長、昭和61年卒）
宅見央子（江崎グリコ、平成5年卒）
※同窓会詳細、講演要旨は中面参照
講演要旨 P4～P6
- 教室の動向(P2)
- 教員紹介 (P7)
- 同窓会通信（会員の皆さんからの自由投稿欄）(P12～)
- 同窓生動向（職員異動・H21年度卒業生進路）(P21)

大阪大学工学部

醸造・醗酵・応用生物工学科同窓会

尚醸会

平成22年9月

尚醸会バイオテクノロジーセミナー(同窓会)開催のご案内

開催日 平成22年11月13日(土)
場所 大阪市立大学 文化交流センター大ホール
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600
(大阪駅前第2ビル6階) 電話 06-6344-5425
<http://www.osaka-cu.ac.jp/faculties/bunko/access.html>
JR大阪駅より徒歩10分

○15:30 総会 6階 大ホール
○16:00 講演会
不二製油株式会社 海老原善隆 昭和44年卒
「技術への拘りと執念」
塩野義製薬(株) 石崎 順 昭和61年卒
「塩野義製薬における醗酵工学科卒業生の活躍」
江崎グリコ株式会社 宅見央子 平成5年卒
「糖転移ヘスペリジンの血流改善作用について」

○18:00 交流会
アサヒスーパードライ梅田
〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満4-15-10
ニッセイ同和損保フェニックスタワーB1
06-6311-2829
<http://r.gnavi.co.jp/k022208/>

参加費 5000円
出欠を同封の用紙にてFax、郵送または、E-mailでお知らせください。

本年度の同窓会の開催日と開催場所について

これまで同窓会(尚醸会)は、11月の第2金曜日に、新大阪駅近くにある「大阪メルパルク」で開催することを基本としておりました。これは、毎年、決まった日に開催をすることにしておけば、お忙しい皆様の御予定に、年度当初から組み入れて頂ける事を考えたものであり、また、会場についても、新大阪であれば、西から来られる方、東から来られる方、いずれの方々にも交通の便が良いということを考えてのことでございます。しかし、本年の同窓会を計画するにあたり、企業、大学など、お勤め先にかかわらず、現役の方々にとっては、「金曜日の午後はなかなか出にくい場合がある」、また、「大阪メルパルクは、確かに雰囲気は良いが、同窓会場と懇親会場をセットで予約しなければならないため会費が高くなるのでは」などのご意見を頂きました。こうしたご意見を受け、同窓会幹事会で、なるべく多くの会員の方々に出席頂けるよう、開催曜日や会場を検討致しました。11月中の金曜日、土曜日について、大阪駅周辺のいくつかの会場の空き具合や費用についての情報も入手し、総合的な観点から検討を致しました結果、今回は、大阪市立大学 東雅之先生(昭和60年卒)にお世話いただき、11月13日の土曜日に、大阪梅田から程近い大阪市立大学文化交流センター大ホールをお借りして開催することに致しました。会場が非常に安く借りられること、懇親会場を、同窓会場とは独立に、値段がリーズナブルな近くのレストランに自由に設定できることもあって、これまでよりかなり安い参加費で、ご参加頂けることになったものと思っています。土曜日の方がかえって出にくいという会員の方々におかれましては誠に申し訳ありませんが、上記のような事情ですので、どうか宜しくご理解の程、お願い申し上げます。皆様、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますよう、お願い申し上げます。

尚醸会幹事長 原島 俊(昭和47年卒)

目 次

巻頭言 - 若者よ、Hazardous Journey を目指せ！	今中忠行..... 1
教室の最近の動向	紀ノ岡正博..... 2
故芝崎 勲先生を悼む	高野光男..... 3
技術への拘りと執念	海老原善隆..... 4
塩野義製薬における醗酵工学科卒業生の活躍	石崎 順..... 5
糖転移ヘスペリジンの血流改善作用について	宅見央子..... 6
教員紹介：生命環境システム工学領域について	渡邊 肇..... 7
～応生 Archive：教室の懐かしい物品を紹介します。～	大政健史..... 8
2010 年 バイオテクノロジーセミナー報告	古川 令..... 9
2010 KAIST-大阪大学交流シンポジウム 報告	古賀雄一..... 11
<<同窓会通信>>	12
今中先生紫綬褒章受章報告	森川正章
“D S P 尚醸会” 発足	筒井麻衣子
同窓生からのメッセージ	
平成 21 年度 同窓会会計報告	17
大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学同窓会「尚醸会」会則.....	18
同窓会現組織	20
会員の動向	20
● 職員の異動	
● 会員計報 心からのご冥福をお祈り申し上げます。	
● 平成 22 年 3 月卒業、修了生進路等 （工学研究科教務掛提出資料より）	
教室の構成	
クラス会幹事	

巻頭言 - 若者よ、Hazardous Journey を目指せ！ -

立命館大学生命科学部 今中忠行（昭和42年卒）

昔から「かわいい子には旅をさせよ」という言葉があります。「ライオンは子供を千仞の谷に突き落とす」とも言われます。いずれも子供をぬくぬくと甘やかせて育てるのは良くないということでしょう。最近、草食系男子という言葉も耳にします。

私は昭和44年に大学院を修了してから約40年間にわたり微生物学に関する研究を続けてきました。研究内容も生物化学工学、分子生物学、生化学、応用微生物学、環境バイオテクノロジーと変遷しましたし、場所も大阪大学、マサチューセッツ工科大学（MIT）、京都大学、立命館大学と移りました。アメリカ留学時には、良く働くポスドクは日本人と台湾人だと言われていましたが、今では中国人と韓国人ということになっています。やはり日本人も豊かになるとその環境に安住し、新しい冒険に飛び出すのがおっくうになっているのかもしれませんが。

講義でも、若い学生に「旅に出なさい。できれば一人旅がいいです。」とけしかけています。旅に出るときは少し不安でも、いろいろな人や自然と接するうちに新しい発見に出会うことが多いのです。

MEN WANTED for Hazardous Journey.

Small wages, bitter cold, long months of complete darkness, constant danger, safe return doubtful.

Honour and recognition in case of success.

Ernest Shackleton

これはシャックルトンが1900年にロンドンの新聞に出した南極探検隊募集広告の全文です。すごいことに、応募が殺到したと言われています。

私は2004年11月から2005年3月にかけて第46次南極地域観測隊の一員として南極に行きました。露岸地域でテントを張り、真っ白い氷の世界を眺めながら、隊員と交流し、多くの試料を採取してきました（写真）。そこからは興味ある特殊な微生物も多く発見できましたが、それ以外にもオーロラを見たり、ペンギンの巣地に行くなど非日常の経験をすることができました。それがどのようにその後の生活に役立ったかは分かりませんが、充実感があったことは事実です。同窓会の中には若い（と思っている）人たちが多いと思いますので、このような話題を提供した次第です。



教室の最近の動向

生命先端工学専攻 生物工学コース長 紀ノ岡正博

平成 22 年 7 月現在、生命先端工学専攻生物工学コースには、教授 7 名、准教授 5 名、助教 6 名の教員が在籍しております。加えて、物質生命工学講座の極限生命工学領域（3 名）、生物工学国際交流センター（5 名）、情報科学研究科バイオ情報工学専攻（6 名）および産業科学研究所高次細胞機能研究部門（3 名）に先生方が在籍され、学部および大学院の教育にご協力いただいております。この他、生物工学コースならびに関連研究室には、31 名の特任研究員（特任教官を含む）、2 名の技術職員、3 名の事務職員、14 名の技術補佐員と 20 名の事務補佐員が在籍しております。また、学生数は、英語コース所属の大学院生を含め、博士後期課程 45 名、博士前期課程 105 名、学部研究室配属学生 73 名が在籍しております。

さて、平成 21 年度から平成 22 年度にかけて、当教室は人事異動を中心に大きな移り変わりがありました。まず、当コースに関連する研究室として、Hitz（日立造船(株)）バイオマス開発共同研究講座（担当：中澤慶久招へい教授）が 2010 年 1 月に開設されました。本共同研究講座は、福岡教授らと共に、植物バイオマス資源の工業利用に関する技術開発を進めており、特に、トチュウゴムの新規用途開発や製品安定供給のために必要な技術開発を行っておられます。今後、高機能化学合成素材および高付加価値素材の材料開発を目指しおり、生物工学コースと密接に活動していただいております。コースにおける人事異動につきましては、平成 21 年 8 月 1 日に生物工学国際交流センターに三崎亮先生が助教としてご着任。平成 22 年 3 月末で片倉准教授がご退職され、関西大学化学生命工学部 教授として異動、大政准教授が平成 22 年 4 月末で退職され、徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授として異動されました。また、平成 22 年 5 月 1 日には、横浜市立大学付置研究所から村中俊哉先生が細胞工学講座の教授としてご着任され、細胞工学領域を担当されておられます。さらに、平成 22 年 4 月 1 日に英語コース 1 期生の金美海（KIM MEE-HAE）先生が、生物プロセスシステム工学領域の助教としてご着任、平成 22 年 6 月 1 日に生物化学工学領域の本田孝祐先生が准教授にご昇任、平成 22 年 6 月 16 日に松浦友亮先生（平成 6 年卒）が、生命環境システム工学領域の准教授としてご着任されました。

一方、我が国の高等教育の国際競争力の強化および留学生等に魅力的な水準の教育等を提供するとともに、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の養成を図ることを目的とし、国際化拠点整備事業（グローバル 30；学部留学生を対象とした英語コース）が大阪大学で採択され、当コースでは、採択の一つ「化学・生物学複合メジャーコース」へ協力させていただいております。本コースでは、急速に進展を続ける科学研究のさまざまな課題に対応できる技能を養うと共に、化学と生物学の基礎および相互に融合する分野を同時に学べる新しい英語コースで、既存の英語コース（フロンティアバイオテクノロジー英語特別プログラム）に加えて、大阪大学の教育プログラムの幅を一段と広げるものとして期待されております。

また、博士前期課程の授業においては、生命先端工学特論 1 を新規に開講致しました。本授業は、企業・試験所などでご活躍されている方をお迎えして実施されるオムニバス集中講義となっており、H22 年度は、東和薬品(株)の播磨武先生、日立造船(株)の中澤慶久先生、ヒューマンサイエンス研究資源バンクの澤田秀和先生、大阪市立工業研究所の島田裕司先生にご協力いただき、実践的な生きた授業を学生に提供しております。

大学教育の現場では、特徴ある授業や研究活動を通して、国内外の学生の資質を伸ばすべく日々努力を行っており、今後も良き人材を輩出して行きます。会員の皆様におかれましては、前途ある後輩たちへ求人を含めた就職活動情報のご提供をお願い申しあげるとともに、今後も当コースの運営に多大なご支援を賜りますようお願いいたします。

故芝崎 勲先生を悼む

高野光男（昭和28年卒）

前同窓会会長 芝崎 勲先生は、平成22年5月30日満90歳の生涯を閉じられました。6月1日、公益社枚方会館における告別式は、故人の遺志により無宗教法式で進められ、ご親族と多数の同窓生、学会関係者が参列して先生を偲びました。お別れで礼拝した棺の中の先生の尊顔は、現役時代のように生氣にあふれ威厳に満ちていて、今にも起き上がって論文を書き始めるのではないと思われる程でした。

先生は前大戦のさなか昭和18年9月、本学醸造学科を卒業されました。その後、陸軍航空技術研究所でバイオ航空燃料の研究に従事され、戦後醸造工学科に戻られて助教授に就任。昭和36年教授に昇任し、「殺菌及び食糧貯蔵工学」を担当されました。食品の安全性を確保するための工学の重要性は今日広く理解されていますが、先生は世に先駆けてその中核たる「食品殺菌工学」なる新分野を体系化し、研究、教育および有能な人材の育成に努められました。昭和42年初版の「食品殺菌工学」は、その改訂版「新・食品殺菌工学」と共に、永年にわたりこの分野での研究者、技術者の唯一の教科書となりました。昭和59年定年退官され本学名誉教授となられた後、昭和60年帝塚山学院短期大学に移り、平成元年から平成5年まで同短期大学学長を務められました。学会においては、日本醸造工学会（現日本生物工学会）副会長、日本防菌防黴学会会長、日本食品低温保蔵学会（現日本食品保蔵科学会）副会長、日本食品工業学会副会長、日本食品機械学会会長などを歴任され、斯界の指導者として活躍されました。これら永年のご功績により勲2等瑞宝章の叙勲を受けられました。

本学の醸造、醸造および応用生物学教室の卒業生の同窓会活動は、芝崎先生のご指導のもと維持されて来ましたが、平成8年に現同窓会の前身が正式に発足し、芝崎先生が初代会長に就任されました。以来平成18年の尚醸会改名まで先生には本同窓会の活動と発展に多大な貢献をして頂きました。

先生は実に几帳面で責任感が強く、ご自身の周囲は驚くほど整理されていました。教室会議では、しばしば以前の忘れられた決まり事が、芝崎メモが決め手となって甦りました。雑談のなかで昔の内外のある研究が話題になると、先生は膨大な資料の中から忽ちその別刷を引きずり出して見せました。今は省エネがしきりに叫ばれていますが、先生は徹底していました。あの暑さで有名であった研究棟の、エアコンどころか扇風機もない先生の部屋で、いつも団扇一本で涼しげに仕事をされていました。日頃、チラシ広告の裏にペンで原稿を書かれていたのも印象に残っています。

今日までの永年にわたる芝崎先生の懇切なご指導に感謝し、先生のご冥福を深くお祈り申し上げます。
合掌



故 芝崎 勲 先生

技術への拘りと執念

不二製油株式会社 海老原善隆（昭和44年卒）

不二製油は油脂と大豆たん白をベースとする食品中間素材メーカーですが、何故「技術の不二」と言われるようになったのか、どのような考え方をしている会社なのか、当社での私の経験を「技術への拘りと執念」ということでご紹介申し上げます。

1. 会社のDNA

1) 商社に生い立ち 海外に早くから進出し、1970年代には世界の大手食品、製菓会社を相手に、極東の名もない食品素材会社が気おくれもせず商品説明に走り回っていました。やはり商社という遺伝子、DNAがそうさせた大きな力だったと思っています。日本の食品メーカーで、当社のレベルで、原料から生産、販売まで、海外ネットワークを有している会社は、現在でもそう多くはありません。

2) 固形脂で出発 当社は日本の食油メーカーでは後発で、一般の大豆油、ナタネ油等の液体油でなく、南方系の固形脂のヤシ油でスタートしました。しかし、この固形脂と液体油の違いが、当社の将来の方向「技術の不二」を育てることになります。

液体脂と違って固形脂は融点差や溶剤への溶解度差で異なる幾つかの油脂に分けることができます。この工程を「分別」と呼びますが、分けることにより得られる素材は世の中にはない新しい可能性を秘めています。液体油を扱っている限りは全く縁のない世界です。この結果、当社は油脂加工の分野、技術で他の製油メーカーを一步も二歩もリードすることになります。モノを分けて新素材を得る考え方は、不二製油では大豆たん白の分画にも応用され、幾つかの新しいたん白健康素材が育っています。

2. 常識の直ぐ横にある発見と執念

食品工業で酵素を使って工業化した例は、世の中にそう多くはありませんが、当社の酵素エステル交換技術はその一つです。昭和50年代の初め、油脂の酵素エステル交換を研究していたのは当社だけでなく、欧州の油脂大手競合先もより以前から研究に着手していました。最終的に当社が特許争いに勝ちましたが、争点になったのは、酵素反応での水分濃度でした。競合先は当然ながら酵素反応にはある濃度以上の水が必要と判断していました。当社は水分濃度を限りなく低くして、むしろ上限を設ける特許範囲を設定しました。これは常識破りです。少々知識のある研究者なら首を傾げたかもしれません。しかし、現実には、超低水分濃度でも遅いながらも実用的に有意に反応が進み、品質に悪影響を及ぼす加水分解物を抑えることが出来ました。

この酵素エステル交換技術は、今でも当社のコア技術の一つですが、実際の工業化に辿りつくまでには、そのあと並々ならぬ努力が必要でした。

この仕事は二つのことを示唆しています。一つは、「新しい発見は常識の直ぐ横に横たわっている」ということ。そしてもう一つは、発明にはひらめきが必要ですが、しかしその上に「何としてもやり遂げるという執念」がなければ実りません。なぜなら、最初から完璧な発明などあり得ないからです。

塩野義製薬における醗酵工学科卒業生の活躍

塩野義製薬（株） 石崎 順（昭和61年卒）

私は昭和63年に修士課程を経て塩野義製薬に就職し、以来22年間研究所に勤務をしています。製薬という仕事は人々を病から救うことができるとてもやりがいのあるものではありますが、同時に開発の初動研究から市場で出るまでの期間が極めて長く、またその成功確率が低いことを特徴とする職種（業界）でもあります。

国内外の製薬各社はその成功確率を高めるために地道な研究開発に加え、アライアンスや技術ベンチャー企業の買収など、さまざまな創意工夫と企業戦略の立案と実施しています。塩野義製薬においても、ここ10年ぐらいで研究活動は目的指向性を持って管理がなされるようになってきました。実際私が入社した20程度前は研究テーマはほぼ自由に選ぶことができ、多くの研究者が論文の投稿や学会での発表を目指して研究に励んでいましたが、その後、合理性、結果指向性を求めるスタイルに変化していき、一定の成功を収めると同時に新たな壁にも当たっている感じがいたします。一方で、今も昔も薬創りを推し進める源泉は研究力にあり、その意味でそれを本分とする大学との連携性や人的なつながりが濃いことも製薬業界の大きな特徴です。塩野義製薬では積極的に大学との共同研究を多く推し進めると同時に継続的に大学から多くの研究者を採用し続けています。特に阪大とは地理的な親近感もあり、いくつかの大きなプロジェクトを進めると同時に多くの卒業生を社員として迎え入れています。特に工学部醗酵工学科（現在の応用生物工学科？）からは多くの卒業生が研究所内外で活躍をしています（薬学部以外では最も人数が多いのではないのでしょうか）。その背景には醗酵出身者は微生物学を中心にサイエンス全般に幅広い知識を身につけていることがあるのではと考えています。

同窓会（尚醸会）の当日は「創薬の流れ」「製薬企業の特徴」「大学との共同研究」などについてお話し、最後に「活躍する醗酵出身者」についてご紹介できればと考えています。

糖転移ヘスペリジンの血流改善作用について

江崎グリコ株式会社 宅見央子（平成5年卒）

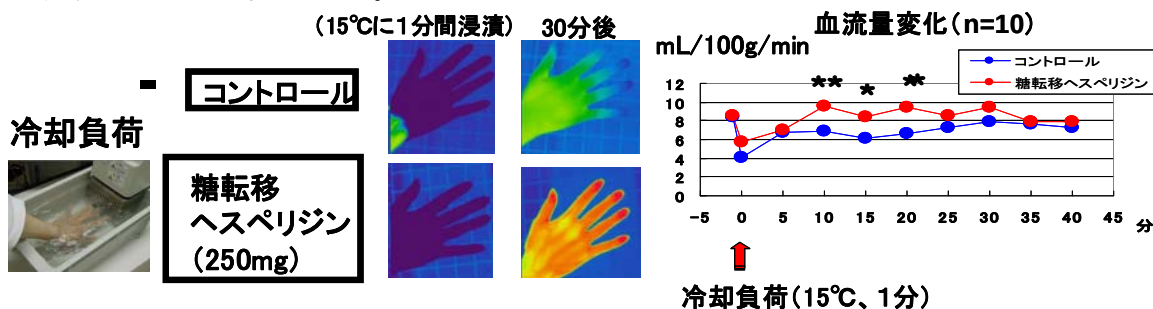
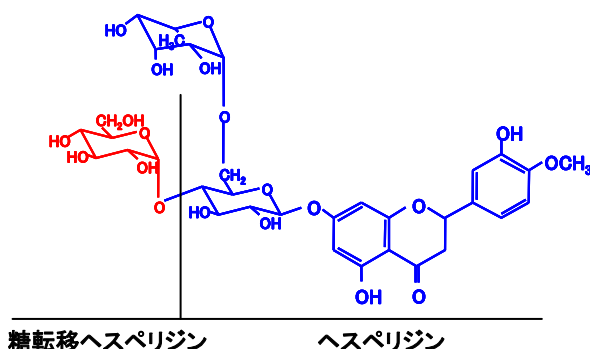
大学卒業後、江崎グリコ㈱に入社し、健康食品の研究開発に携わる仕事を続けてきた。江崎グリコ㈱の企業理念は、「おいしさと健康」であり、赤い箱の「グリコ（キャラメル）」の創製から、この理念に基づいた企業活動を行っている。近年は、生活習慣病予防を目的とした健康食品の開発に注力しており、私は女性の健康増進を目的とした研究開発を担当している。

現在は、「糖転移ヘスペリジン」という機能性素材の研究と、この素材の生理機能を活用した製品開発を進めている。

「糖転移ヘスペリジン」とは、柑橘類に含まれるフラボノイドであるヘスペリジンの毛細血管強化作用や抗炎症作用などの生理機能を維持したまま、難溶性のために食品に利用し難いという欠点を改善し、生体利用性を高めた素材である。

我々は、「糖転移ヘスペリジン」の複数の生理機能の中でも、特に血流改善作用に注力してきた。最近、「体の冷え」や「体温」がマスコミなどでよく話題になっている。実際、成人女性の半数以上が冷え性であるという報告もされている。そこで、冷え性の女性を対象に、経口摂取した「糖転移ヘスペリジン」が、冷水に手を浸漬させて低下した皮膚温の回復に及ぼす影響を調べた。その結果、「糖転移ヘスペリジン」は、プラセボ摂取時よりも血流を高く保ち、皮膚温の回復が早くなる作用があるという結果が得られた。また、夏の冷房で全身が除々に冷えるような状況でも、「糖転移ヘスペリジン」は、抹消皮膚温の低下を抑制する作用が見られた。「糖転移ヘスペリジン」の血流改善作用は、目の下のくまを目立たなくしたり、皮膚の弾力を改善したりする美容効果にも応用できる。血流改善のメカニズムに関しては、血管内皮細胞由来の血管拡張物質（NO）の産生を促進することや、自律神経に影響を与え、交感神経活動を抑制し、副交感神経活動を促進することを示唆する結果を得ている。

現在は、これらの研究結果を活用し、「糖転移ヘスペリジン」を配合したサプリメントやコラーゲン飲料を販売している。発表では、「糖転移ヘスペリジン」以外の健康訴求商品にも若干触れたいと考えている。



教員紹介：生命環境システム工学領域について

生命先端工生物工学コース 渡邊 肇

平成21年6月にト部先生の後任として参りました渡邊肇と申します。

この度は歴史ある生物工学講座の教員として迎えていただき、大変な喜びであると同時に大きな責任を感じております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

研究室の名称については、生命環境システム工学とさせていただきました。岡田先生の酵素工学、ト部先生の進化生命システム工学について名称が変わることになりますが、近年特に関心が高まり、問題にもなっている地球環境問題の解決にむけて生物の持つ巧みなシステムを利用して少しでも貢献できたらという思いで名前をつけさせていただきました。

ト部先生の時から助教をお願いしている塚田幸治先生、この6月に准教授として着任していただいた醗酵の卒業生でもある松浦友亮先生の3人のスタッフと7月には学振特別研究員として加藤泰彦さんに加わっていただき、本格的に始動したところです。

中心となるテーマの1つは、生物科学にもとづいた環境の評価です。さまざまな化学物質が利用され環境中に放出され、温暖化もとりにぎたされる中で地球環境は大きく変化しています。ところがこうした変化が人や環境中の生物へ及ぼす負荷についてはきちんと理解し評価する十分な体系ができていませんでした。そこでこの領域では、生物の応答、特に遺伝子レベルでの応答に着目して生命と環境のあり方を理解することにより、社会に役立てようというねらいがあります。例えば化学物質の開発に関しても、環境への負荷を事前に的確に評価することができれば、その利用に関して適切な指標となります。また一方で生物は環境変化を感知するための様々な優れたシステムを持っています。これらの作用メカニズムを明らかにし利用することにより社会に貢献できればと考えております。

対象の生物としてはマウスだけでなくかわったところではミジンコを使っています。ミジンコのゲノムプロジェクトには私たちも参画しその全体像を明らかにしつつあります。また遺伝子操作技術も私たちのところで開発に成功したため、今後さまざまな応用が期待されています。これらの生物は種々の器官を持った個体として発生・分化しますから、微生物とはまた異なった面白さや利用の仕方がたくさんあります。今までの生物工学の研究室とは多少趣が異なっているように感じられるかもしれませんが、生物工学の先生方の研究内容や考え方などいろいろと学びながら、生物工学ならではの強みを生かし、研究や教育をはじめとしてさまざまなことに取り組んでいきたいと考えております。

前任地は、岡崎にあります基礎生物学研究所でしたが、学生さんがほとんどいないのが非常に残念でした。こちらに移ってから、まず今年度に5人の4年生が研究室に来てくれました。これからどんどん学生さんが増えて活気のあるにぎやかな研究室になればと、これからを非常に楽しみにしているところです。

もともと微力ではありますが、伝統に恥じないよう全力で取り組む所存でおります。尚醸会の諸先輩方におかれましては、よろしくご指導、ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

～応生 Archive：教室の懐かしい物品を紹介します。～

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 大政健史（昭和61年卒）

大阪大学総合学術博物館（www.museum.osaka-u.ac.jp）をご存知でしょうか。大阪大学では大学内にある様々な貴重な文献や資料を総合学術博物館にて紹介しています。展示場は豊中キャンパス内の旧医療技術短期大学部の敷地にある待兼山修学館にあります。貴重な資料はインターネットでも紹介されています。本教室に関するものとしては、「坪井記念館 設計図」と「坪井記念館銘板」「坪井記念館（坪井仙太郎先生寄贈）パネル写真」がデータベースとして画像ファイルでご覧になれます。一度ご覧になってみてください。



坪井記念館銘板：

昭和辛未（昭和6年、1931年）に設置

今回はもう一つ紹介します。吹田キャンパスのサントリー記念館をご存じだと思います。通りかかることがありましたら、微研側にあるこの春に整備されたバイク置き場のそばの石碑をご覧ください。これは本教室の寺本四郎先生の退官記念の際に設置されたものです。普段何気なく側を通っていると思いますが、一度立ち止まって見てみませんか。



1969年3月31日に設置された寺本四郎先生の退官記念石碑

2010 年 バイオテクノロジーセミナー報告

大阪大学工学部醸造・醗酵・応用生物工学科尚醸会 関東支部事務局

尚醸会関東支部の同窓会として、下記のように開催しましたので概要をご報告します。

日時 2010 年 5 月 21 日（金） 17：30～19：00

会場 キャンパスイノベーションセンター東京（東京都港区芝浦 3-3-6）

講演プログラム

1. 「起業ということ」
京都工業繊維大学 川北眞史教授（阪大 経済卒）
2. 「再生医療における生物化学工学の役割」
大阪大学大学院工学研究科生命先端工学科専攻生物プロセスシステム工学領域
紀ノ岡正博教授
3. 「社長のお仕事」
株式会社イズミフードマシーナリ 鶴谷泰二社長（昭和 43 年卒）

川北教授からは、会社法や起業経営のポイントについて、「死の谷」の乗り切り方や「良い倒産」と「悪い倒産」、日本と欧米との起業に対する環境の違いなど、判り易くご説明頂きました。

紀ノ岡先生からは、移植など医療の技術だけが注目されがちな再生医療において、移植する組織の大量製造技術や、製造した組織の品質の評価や予測技術の重要性など、最新の再生医療の分野で工学部の視点でのご研究についてご紹介頂きました。

鶴谷社長は、「増収・増益・無事故・無違反」の社長の使命をまっとうするために必要な知識やノウハウを、ご自身のご経験に基づいてユーモアも交えてご説明頂きました。非常に含蓄のある内容で、スライドのレジメもご用意頂きました。

3 題のご講演終了後に、今年 5 月から徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部に異動された大政健史教授（昭和 61 年卒）から尚醸会の概況および今年の全体の会が 11 月 13 日（土）に梅田で開催される旨についてご説明があり、その後、引き続き懇親会を開催しました。（参加者は 36 名）

懇親会は大政先生の乾杯に始まり、学生の曹さん、若手の占部博也さん（平成 19 年卒）の一言、そして柏原仁さん（平成 17 年卒）と木下貴絵さん（平成 17 年卒）の中締めと退室のタイムリミットぎりぎりまで盛り上がりました。今後は、西田寛さん（平成 9 年卒）、木下さんも関東支部の幹事としてお手伝い頂ける事になり、来年はより多くの若手の方の参加を期待しています。

（文責：古川 令 昭和 53 年卒）



川北先生 「日本は創業より倒産が多い」



鶴谷泰二社長（昭和43年卒） 「所詮は人の世・・・好かれる事が一番」



紀ノ岡正博先生 「タコも走る時代。幹細胞も走る？」



大政健史先生のご発声で乾杯 「同窓会，同期会に参加しましょう！」

2010 KAIST-大阪大学交流シンポジウム 報告

大阪大学大学院工学研究科 古賀雄一（平成8年卒）

2010年7月22日から24日まで、奥池ロッジ（芦屋市）にて”2010 KAIST - Osaka University Graduate Students Symposium in Biotechnology”を開催した。本シンポジウムは阪大工学研究科生物工学コースと、韓国のKAIST（韓国科学技術院）との間で1,2年に一度行われている大学院生の交流イベントで、今年は阪大から19名（教員2名、大学院生17名）、KAISTから21名（教員2名、学生19名）の参加を得て、2日間に渡る研究発表会と交流活動を行った。

研究発表は全て英語の口頭発表で、座長も双方の学生が交互に務め、合計36名がプレゼンを行う形式である。双方の学生の発表は、タンパク質、微生物から植物、幹細胞まで、多岐に渡る高度な内容であったが、阪大側の学生もよく質問し予想以上に活発な発表会であった。印象的だったのは、皆、分かりやすい発表が心がけられており、非常によく準備されていたことだ。最近の阪大生は英語プレゼンのレベルも非常に上がっていると感じた。

KAISTの学生や教員と話していると、彼らは我々と非常によく似た感性を持っていることに気がつく。非英語圏であることや、文化的に近いというだけでなく、受験問題、就職問題、科学に対する社会的価値観など、KAISTと阪大工学部がおかれた社会環境がよく似ているためか、話をすると互いに頷き合うような場面がよくあるのである。一方で、KAISTは修士、博士一貫の教育課程で授業も英語で行っており、卒業後は海外へポスドクに出て行くことが奨励されているなど、修士で社会に出て、国内企業での研究/技術者としての道を選択する我々とは大きく異なる面も持っている。これから社会にでる学生にとって、異なる教育システムで学ぶ同年代の「仲間」の話は刺激的だったのではないかな。我々にとって、KAISTは良い交流相手であると再認識させられた。

本シンポジウムは、本専攻生物工学コース同窓会「尚醸会」と大学院教育改革支援プログラム（21年度より組織的な大学院教育改革推進プログラム）「国際連携大学院FDネットワークプログラム」の支援を受けて開催された。ここに厚く御礼申し上げる。



<<同窓会通信>>

今中先生紫綬褒章受章報告

北海道大学大学院 森川正章（昭和５８年卒）

今年４月２９日に発令された春の叙勲で、京都大学名誉教授、現在立命館大学教授の今中忠行先生（昭和４２年卒）が微生物工学分野における顕著な功績で紫綬褒章を受賞されました。５月１４日の如水会館での伝達式では２４名の同章受賞者を代表してご挨拶もされました。続いて、皇居豊明殿で行なわれた天皇陛下拝謁に出席されました。今中先生の今後益々のご健勝を心よりお祈りします。



“DSP尚醸会”発足

大日本住友製薬株式会社 筒井麻衣子（平成13年卒）

昨年10月、大日本住友製薬では、大阪大学 醗酵醸造工学科（現 応用生物工学科）出身者が集う社内同窓会“DSP尚醸会”がめでたく発足致しました。若輩ながら、DSP尚醸会の事務局を仰せつかっている事情から、会を代表して本原稿を執筆させて頂いております。

昨年10月に開催された発足会には同窓生20名が集まり、薬学もしくは化学系の専攻出身者が多い社内にて、醗酵で培った精神と知識？を武器に各部署で奮闘・活躍している方々の学生時代の思い出話、社内での四方山話に花が咲きました。

また、今年6月には、本会の発起人のお一人であられる竹根 幸夫さん（昭和53年卒）の壮行会に16名が参集し、竹根さんの数々の武勇伝をお聞きすると共に、今後のますますのご活躍を祈念して記念品を贈呈させて頂きました。

いずれの会も、幅広い年齢層・職歴の方々が集い、醗酵出身という共通点なしには集まることのできない貴重な交流機会となりました。

今後も、本会を通じて交流を深めていくと共に、交流の輪を広げるべく新規勧誘に努めたいと思いますので、当社にゆかりのある同窓生の方がおられましたら、是非ご一報下さい。また、この記事を読んでいる学生の皆さん、愉快的同窓生の面々がお待ちしておりますので、製薬企業でのお仕事に興味がありましたら、是非入会（入社）をご検討下さい。



写真： いずれも壮行会（2010年6月）左： 幹事の水野江弘さん（左、平成4年卒）より竹根さん（右）への記念品贈呈 右： 集合写真

同窓生からのメッセージ

関 善一（昭和16年後卒）

高齢（91歳）で出かけることは難しくなりました。いつも会報等お送りいただきありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

辻阪好夫（昭和26年卒）

昭和56年4月1日 大阪市立工業研究所を定年退職し、同日 岡山市の（株）林原生物化学研究所に常務取締役として入社したのち、（株）林原総合研究所に転勤し、副社長として平成18年12月80歳になるまで勤めました。また、平成14年4月から平成19年3月まで、文部科学省の知的クラスターで香川大学の希少糖の研究の事業統括を致しておりました。平成19年3月以降は、家内と、国内、国外に観光旅行に出かけて居り、体力の続く限り旅を楽しむつもりでおりました。ところが、今年の春、家内が新大阪駅で転び大腿骨を骨折し、現在もリハビリ中で、私が運転して病院に通っており、忙しい日を送ることになりました。大学を出て55年間は職場は変わっても、微生物酵素の研究のみを続けられたのは幸せであったと思っています。

平尾 學(昭和27年卒)

今年1月（2009年）で満80歳になりました。昨年11月に脳梗塞を患いましたが、軽くて元気になっています。

廣野辰彦（昭和37年卒）

いつもお世話になりありがとうございます。尚醸会会報には講演予稿も記載されるなど年々充実して楽しみになってきました。今回はあいにくヒマラヤトレッキングからの帰国直後にあたり、欠席します。ご盛會を祈ります。

遠藤靖夫（昭和31年卒）

今年6月2,3日に幹事藤之木昭二郎君の計画で高野山福智院に於いて、卒後53年目の同窓会が開かれました。喜寿前後になると体の具合や都合が悪くなり、結局7名の出席と成りました。嵐山での50周年同窓会には14名出席で、元気で参加した香山聡君が昨年8月、井上章君が今年1月に残念にも鬼籍に入られたので、3日の朝6時には全員参加して早朝のお勤めで供養をお願いし、二人の冥福を祈りました。靈山高野山の金剛峯寺、根本大塔や奥の院を参拝することで弘法大師の靈驗を多少は戴いた様な清々しい気分が高野山を下りました。（出席者：藤之木昭二郎、飯田孝雄、井口透、遠藤靖夫、関文彦、富士野公也、八木佳明）平成21年9月26日



遠藤靖夫様（昭和31年卒）より枚方校舎の写真を頂きました。

（一昨年に頂いていたのですが掲載が遅くなり申し訳ございません 編集担当）

大政健史（昭和61年卒）

皆さまお元気でお過ごしでしょうか。小生、4月末で大阪大学を退職して、5月1日付で高麗寛紀先生の後任として徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部（工学部生物工学科）に異動致しました。大阪大学在職中は大変お世話になりました。徳島にお越しの際はぜひお立ち寄りください。

松本雄大（平成2年卒）

現在、サントリーホールディングス（株）の水科学研究所で水の研究開発を行っています。水は地球上で循環していますが、一旦汚染すると、使用できなくなります。水の浄化には、生物多様性が大切で、いかにして、サステナビリティ（持続可能性）を維持することができるか？企業としての責任を感じつつ、活動に励んでいます。昨年度は、東西両同窓会と大阪工業会のビールの会に参加し、平成2年度の卒業生の皆さんとお会いし、元気な様子を見てきました。同窓会の皆さま、これからも、同窓会に参加し懇親を深めましょう。

金谷 忠（平成8年卒）（森下仁丹株式会社 研究開発本部）

会社が移転してもうすぐ2年経ちます

多くの同級生よりも少し長く学生生活を送った私ですが、森下仁丹に就職し今年で9年目を迎えます。最初は自宅から歩いて15分ほどの通勤でしたが、2008年12月に枚方市に工場と研究所が移転し、今では1時間程かけて毎日、通っています。

この移転時に移転プロジェクトメンバーに選ばれましたが、移転準備期間には色々なこ

とに携わらせてもらいました。実験室のレイアウトを決めることはもちろんのこと、みんなの意見をまとめて居室のコンセプトを作たり、食堂や応接に使用する机やイスまでも決定し、その購入の手配までもしました。他のメンバーよりも思い入れの強い新社屋は今年の12月で竣工から丸2年を迎えます。現在、そこで私はビフィズス菌に関連した研究開発を担当していますが、たまには本社へ行き、ビフィズス菌の魅力をお客様に伝えるにはどうしたら良いのか？などを営業チームと議論するなど忙しい日々を送っています。

私が担当する「ビフィーナ」は通信販売メインで展開していますが、新聞などの広告を見かけた際には私が開発に携わっていることを思い出していただければ幸いです。

山田靖宙（名誉教授）

阪大退職後福山大学生命工学部で8年間教鞭をとり2008年4月に退職、現在はサンデー毎日（故 照井先生の造語）です。皆々様のご活躍を祈っています。

編集部より

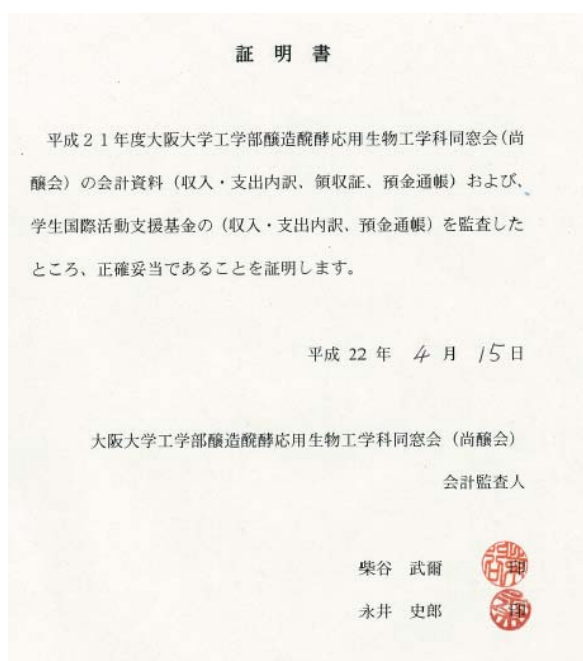
会費振込用紙や同窓会参加申し込み用紙にメッセージをお寄せください。来年の会報に掲載させていただきます。

平成 21 年度 同窓会会計報告

収 入	平成 20 年度より繰越金	3,080,309 円
	平成 21 年度会費	528,550 円
	同窓会パーティ会費	320,000 円
	受取利子（税引き後）	1,636 円
	合 計	3,930,495 円
支 出	同窓会会誌印刷費（アルバイト代金含む）	208,515 円
	郵送通信費（交通費含む）	240,244 円
	同窓会パーティ運営費（アルバイト代金含む）	383,225 円
	学部 2 年生懇談会補助金	90,000 円
	合 計	921,984 円
収 支	（平成 22 年度への繰越金）	3,008,511 円

平成 21 年度 学生国際活動支援基金会計報告

収 入	平成 20 年度より繰越金	4,321,318 円
	受取利子（税引き後）	2,634 円
	合 計	4,323,952 円
支 出		0 円
	支出合計	0 円
収 支	（平成 22 年度への繰越金）	4,323,952 円



大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学同窓会「尚醸会」会則

1. (名称)
本会は大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学同窓会「尚醸会」と称する。
2. (会員の構成)
本会は次の会員で構成する。
 - (1) 正会員
 - イ 大阪大学応用自然科学科応用生物工学コース、同大学大学院工学研究科生命先端工学専攻生物工学コース（以下教室と言う）およびそれらの前身学科、専攻の出身者。
 - ロ 上記イの教室および付則に示す関連講座の旧教官・教員、現教員および現職員。
 - ハ 上記イの教室および付則に示す関連講座に関係のあるもの（旧職員、研究生、実習生など）で、入会を希望し会長が承認したもの。
 - (2) 名誉会員
会員の中から幹事会の推薦により総会の承認を得たもの。
 - (3) 賛助会員
本会の趣旨の賛同し、付則に定める会費を納めるもので幹事会の推薦により総会の承認を得たもの。
 - (4) 学生会員
大阪大学工学部応用自然科学科応用生物工学コースおよび同大学院工学研究科生命先端工学専攻生物工学コースに所属する学生。
3. (目的)
本会は会員相互の親睦を図り教室の発展に寄与することを目的とする。
4. (所在地)
本会の事務所は教室内に置き、会員の希望により支部を設けることができる。
5. (役員)
本会には次の役員を置く。
 - (1) 会長 1名 正会員の中から総会で選出する。
 - (2) 副会長 2名 正会員の中から会長が推薦し、総会で承認する。
 - (3) 幹事長 1名 正会員の中から会長が委嘱する。
 - (4) 幹事 若干名 正会員の中から会長が委嘱する。
 - (5) 監査 2名 正会員の中から総会で選出する。

(注) 常任幹事を削除。
6. (役員の仕事)
本会役員は、役員会を構成し、本会の運営を図る。役員の仕事は次のとおりである。
 - (1) 会長は本会を総理する。
 - (2) 副会長は会長を補佐する。
 - (3) 幹事長は幹事を総括して会務を掌理する。
 - (4) 幹事は庶務、財務、企画、編集の事務を行う。
 - (5) 監査は本会の運営と会計を監査し、総会に報告する。

(注) 常任幹事の仕事は削除。
7. (役員の任期)
役員の任期は2年とし再任を妨げない。

8. (名誉会長)
 - (1) 本会に、名誉会長をおくことができる。
 - (2) 名誉会長は幹事会が推薦し、総会の承認を得て委嘱する。
9. (会議)
 - (1) 本会は原則として2年に1回総会を開き、役員の改選、会計報告、会則の改正、その他重要な事項を議する。
 - (2) 総会の議決には出席正会員の過半数の賛成を必要とする。
10. (会計)
 - (1) 本会運営の経費は会費およびその他の収入を持ってあてる。
 - (2) 会費は付則に定める金額とする。
 - (3) 名誉会員および学生会員からは徴収しない。また、卒業後50年以上の会員は会費を免除する。
 - (4) 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
10. (会則の変更)

本会の会則は総会において出席正会員の三分の二以上の賛成を得て改正することができる。ただし、書面を持って賛否を表す場合は出席とみなす。

付則

1. 大阪大学応用自然科学科応用生物工学コース・同大学大学院工学研究科生命先端工学専攻生物工学コースの関連講座とは、大阪大学生物工学国際交流センター、同大学工学研究科物質・生命工学専攻極限生命工学講座、同大学産業科学研究所生体応答科学研究部門高次細胞機能部門、同大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻代謝情報工学講座、同大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻生物共生情報工学講座およびその前身をさす。
2. 本則第9条の会費は次のとおりとする。
 - (1) 会費 正会員は年額 2、000円、賛助会員は年額 1口 5、000円。
3. 本則第4条の規定に従い、本会に関東支部を置く。
4. 付則の変更は役員会の議をもって行う。
5. 本会則は平成8年11月15日から施行する。

平成18年11月11日改訂

☆同窓会現組織

会長	大嶋泰治(昭和30年卒)
副会長	菅 健一(昭和37年卒)、中桐義隆(昭和33年卒)
幹事長	原島 俊(昭和47年卒)
常任幹事	大竹久夫(昭和53年D卒)、
庶務担当	松浦友亮(平成6年卒)、東 雅之(昭和60年卒) 片倉啓雄(昭和57年卒)
財務担当	四方哲也(昭和61年卒)、藤山和仁(昭和59年卒)、向由起夫(昭和63年卒)
名簿担当	大政健史(昭和61年卒)
企画担当	永尾寿浩(平成元年卒)
編集担当	松村吉信(昭和63年卒)、木谷 茂(平成8年卒)、古賀雄一(平成8年卒)、
監査	永井史郎(昭和30年卒)、柴谷武爾(昭和38年卒)

新たに編集担当幹事として、大阪大学生物工学国際交流センターの木谷茂先生に常任幹事に就任していただきました。

木谷 茂(平成8年卒) 大阪大学生物工学国際交流センター 助教

☆会員の動向

(最近の動向がございましたなら、同窓会までご一報下さい。)

☆クラス会幹事（クラス会幹事の方には会員の所属の移動等について同窓会への連絡をお願いいたします）

昭和 12 年		昭和 40 年	新名惇彦	昭和 63 年	向由起夫
昭和 15 年	石井隆一郎	昭和 41 年	関 達治	平成元年	永尾寿浩
昭和 16 年	武田六郎	昭和 42 年	卜部 格	平成 2 年	松本雄大
昭和 18 年	芝崎 勲	昭和 43 年	関口順一	平成 3 年	鈴木市郎
昭和 19 年	松本 博	昭和 44 年	土戸哲明	平成 4 年	内山圭司
昭和 21 年		昭和 45 年	古川憲治	平成 5 年	滝口 昇
昭和 23 年	佐藤 勝	昭和 46 年	山本忠行	平成 6 年	松浦友亮
昭和 24 年	野口祐一	昭和 47 年	島田裕司	平成 7 年	永久圭介
昭和 25 年	足立 有	昭和 48 年	曾根良昭	平成 8 年	金谷 忠
昭和 26 年	辻阪好夫	昭和 49 年	小西喜朗	平成 9 年	小林 肇
昭和 27 年	松中昭一	昭和 50 年	中塚正博	平成 10 年	田中礼央
昭和 28 年 (旧制)		〃	東浦忠司	平成 11 年	永塚由佳
昭和 28 年 (新制)	高野光男	昭和 51 年	溝口晴彦	平成 12 年	井戸芳博
昭和 29 年	嶋谷幸雄	昭和 52 年	根来誠司	平成 13 年	後藤優治
昭和 30 年	大嶋泰治	昭和 53 年	金子嘉信	平成 14 年	有岡伸悟
昭和 31 年	遠藤靖夫	昭和 54 年	高木 睦	平成 15 年	新家康弘
昭和 32 年	細見正明	昭和 55 年	滝沢 昇	平成 16 年	和田 悠
昭和 33 年	中桐義隆	昭和 56 年	阿野貴司	平成 17 年	藤井健治
昭和 34 年	野本哲也	昭和 57 年	片倉啓雄	平成 18 年	鳳桐智治
昭和 35 年	森元英雄	昭和 58 年	森川正章	平成 19 年	高木康弘
昭和 36 年	戸田廣良	昭和 59 年	藤山和仁	平成 20 年	木村修一
昭和 37 年	菅 健一	昭和 60 年	中嶋幹男	平成 21 年	外尾竜太
昭和 38 年	吉田敏臣	昭和 61 年	大政健史	平成 22 年	井村 誠
昭和 39 年	藤田正憲	昭和 62 年	山本恵三		

* クラス幹事が空欄の学年は、その学年でご相談の上、同窓会事務局までお知らせください。

名簿整備どうもありがとうございました。

本年行いました名簿整備にご協力頂きましてどうもありがとうございました。最終的な調査の結果、本同窓会名簿には 3190 名の同窓生が掲載され、うち自宅住所不明者が 666 名、物故者が 497 名、住所掲載希望せず 10 名、残りの方々 2017 名にこの同窓会誌をお送りしております。

今後も同窓会活動にご参加・ご協力、どうかよろしくお願いいたします。

大政健史（昭和 61 年卒）（尚醸会名簿担当）

同窓会からのお願い

近年、企業合併や部署移動、市町村合併によって、住所変更や所属変更となる会員が増えておられます。これらに変更が生じた場合、同窓会 (doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp) までご一報ください。なお、お寄せ頂いた個人情報、尚醸会個人情報保護方針 (<http://www.bio.eng.osaka-u.ac.jp/doso/jusho.html>) に従い、適切に対応いたします。

会員各位

拝啓、ますますご清祥のことと拝察します。

さて、下記記載の要領で平成22年度会費の納入をお願い申し上げます。

記

1) 郵便振替にて納入される場合

同封の払込通知票を用いて、最寄の郵便局にてお振込下さい。

(ご記入内容)

払込先口座番号：00920-5-83256

払込先加入者名：阪大工醸造醗酵応生同窓会

金額：2、000円

2) 郵便貯金口座自動払込を申し込まれる場合

最寄郵便局で自動払込利用申込書に必要事項を記入の上、お申し込み下さい。今後、毎年11月30日に貴口座より、年会費2、000円を自動引き落としさせていただきます。手続きの都合上10月15日までにお願い申し上げます。

(ご記入内容)

払込先口座番号：00920-5-83256

払込先加入者名：阪大工醸造醗酵応生同窓会

払込開始月：平成22年11月から

払込日：30日

払込の種別：会費

(注：昨年度すでに自動払込申込をされた方は新たな手続きは不要です。)

♪♪♪♪♪ 同窓生のみなさまへ会費免除のお知らせ ♪♪♪♪♪

いつも会費納入にご協力いただきまして誠に有り難う御座います。

同窓生のみなさまは卒業後50年経過しますと会費免除となります。

平成22年度は昭和35年卒の同窓生が該当致します。会誌送付や諸行事への参加などは今までと変わりありません。今年から免除になられた同窓生及びすでに免除になっておられる同窓生の皆様には、長い間会費を納入していただきまして有り難う御座いました。

今後も同窓会へのご支援・ご協力のほど宜しくお願い致します。



大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学科

同窓会会報 第13号

平成22年9月16日 発行

印刷所 中西印刷

発行人 同窓会幹事長 原島 俊 (昭和47年卒業)

〒565-0871

吹田市山田丘2-1

ホームページ

<http://www.bio.eng.osaka-u.ac.jp/doso/>

電子メール

doso@bio.eng.osaka-u.ac.jp